

早稲田大学

WASEDA Vision 150 「独創的研究と国際発信力の強化」
 ～研究者個々の研究力を引き出す環境・支援体制の整備～
 研究基盤運営の改革：日本の全大学生の約8割を占める私立大学のモデルに

5年後の「達成目標」、達成されたときの「姿」

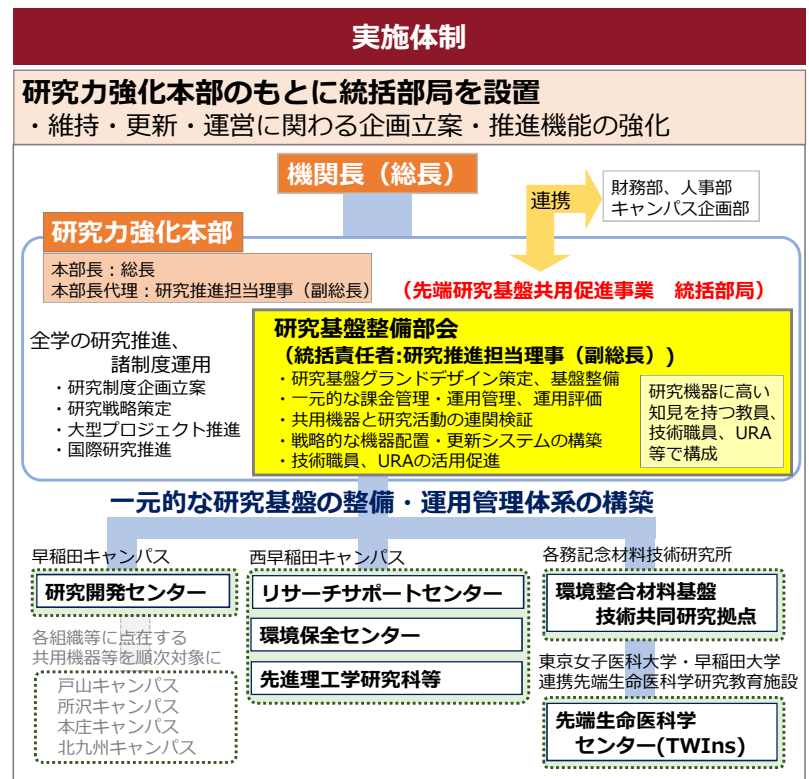
- ◆ 研究共用機器の統一的な運用管理・評価
 - ◆ 全学的かつ緻密な研究戦略に基づく共用機器の維持・更新体制の確立と計画的な研究基盤整備
- 研究者の利便性の向上と研究活動の活性化、研究力の強化
- ✓ 共用機器活用状況の一元管理と老朽化が進む装置の高度化や必要機器の導入、配置見直しなど計画的な研究基盤の整備が実行され、外部利用も促進されている。
 - ✓ 技術職員の専門性とURAの戦略立案機能が相乗的に融合した協働体制による運用評価や機器更新計画の策定が実行されている。
 - ✓ データマネジメントポリシーが確立され、利用データ公開システムの構築や体系的なデータ整備・集約によるマテリアルインフォマティクス等への貢献が実行されている。
 - ✓ 研究機器利用に関する学生研修プログラムの体系化と認定制度の確立によって、学部4年生や大学院生に対する研究者・技術者教育が充実している。

これまでの取組と解決すべき「課題」（ボトルネック）

- 【これまでの取組み】
 - ・中長期計画WASEDA Vision150で「研究の早稲田」を掲げ、個々の研究者の研究力を引き出す環境と支援体制を整備
 - ・理工系キャンパスを中心とした教育・研究施設における研究機器の共通利用や課金制度など、個別組織での展開
- 【解決すべき課題】
 - ・個別組織の部分最適から、IRの観点も踏まえた全学最適への移行
 - ・各組織からの要望に基づく研究機器整備から研究戦略に沿った導入・維持・更新体制の構築と運用ポリシーの策定
 - ・技術職員とURAの協働体制の確立
 - ・運用ポリシーに基づく外部開放と利用データの公開システムの構築、オープンバージョンアップ機能の実現

目標達成に向けた取組み

- 総長直轄の研究力強化本部に**研究基盤整備部会**を設置。強力な指導体制のもと**4つの基本戦略**を立て本事業を推進。
- 【研究機器整備】
 - ・利用状況の一元管理
 - ・利用状況に基づく研究機器のランク分け
 - ・老朽化が進む装置の高度化、必要機器の導入や廃棄、自動化や遠隔操作などのネットワーク化を含む**計画的な研究基盤の整備**
 - 【研究データ】
 - ・機関リポジトリによる利用データ公開システムの構築とともにデータマネージメントポリシーの確立を目指す
 - ・信頼性の高い解析データを体系的に整備・集約することで、**マテリアルインフォマティクスなどの新しい研究分野に貢献できる体制を確立**
 - 【人材活用】
 - ・研究展開や研究活動との客観的な関連検証を踏まえた機器更新計画を、高い専門性を有する**技術職員**と研究戦略の立案に長けた**URA**をコメンターとして戦略的に策定
 - ・技術職員の育成と技術職員組織力の強化
 - 【若手教育】
 - ・本学で培った学生に対する機器利用の導入教育を基盤として、多くの機器メーカーと連携した**実践的な学生研修プログラムの体系化**と各研究分野において**信頼される技術認定制度を確立**
 - ・世界の産業界で活躍できる若手の研究者や技術者育成を推進



他機関との連携

- ✓ 研究基盤に関する諸課題を議論する既存団体等へ参画し、諸課題の解決プロセス（本プログラムでの成果）を私立大学のモデルとして共有
- ✓ データマネジメントポリシーの検討・立案や計測分析機器の共通データフォーマットの標準化において関係する外部機関と連携
- ✓ 分析・計測・加工技術やデータ活用方法等に関する意見交換等を通じた、技術職員のスキルアップに向けた他大学や機器メーカーとの連携
- ✓ 研究設備・機器利用に向けた学生研修プログラムや技術認定制度の外部機関との連携・共有

目標達成のための工程

